

延山四季

武田海正

春 霧深く天女をまもる影嚮石

夏 春木川水音絶えて蟬の聲

秋 袈裟掛の松よりみゆる久遠寺

冬 雪ふみてひとりぬかつく御草庵

春秋八年を憶ひて
懐かしの友へ

孝 秀

この袖に來合せし人の縁かな

近詠數首

石井綠線

◇午睡よりさめてみつむる電氣カバーに

蠅二三匹戯れおれり

◇姿見の前に立ち居て妹は

ほゝゑみて居りさも嬉しげに

◇いつしかに兒は共々に歌ひ居ぬ

我吹き居りしハモニカの音に

◇秋の夜と鈴虫の音とともしひと

我に來りてかなしみを持つ

◇瀧に打たれ祈る人ありしふきさへ

つめたく思ふ今日此頃に

◇寥しさはいつ來たるらむ山里に

尾花亂れて秋風を吹く

夕べの想

中澤小樹

夕陽あわく落ちて行く

山のあなたを眺むれば

何時も悲しきもの懐ひ

うせにし友を思はれて

若草萌える野にふして

君とうたひし春の唄